

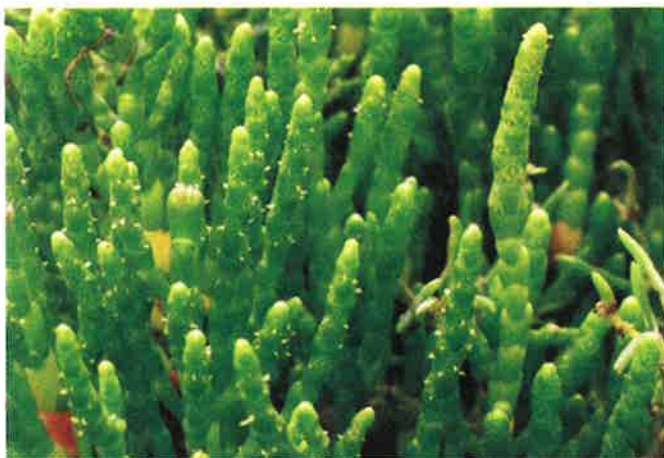
緑のアクセシソウを楽しむ会



アクセシソウ通信

第6号

平成28年10月



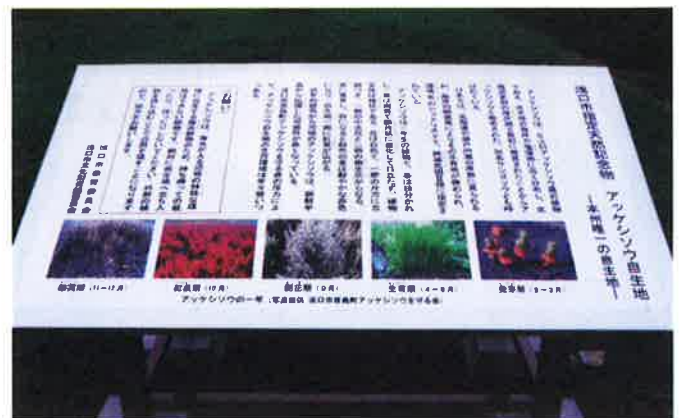
アクセシソウ開花



早春の芽生え



木道完成 (C地区)



アクセシランド説明看板

「アツケシソウ通信」第六号 によせて

浅口市長 栗山 康彦

アツケシソウ通信第六号の発刊を心よりお慶び申し上げます。また、守る会の会員皆様には、アツケシソウの保護活動に日々献身的にご尽力いただきまして心より感謝申し上げます。

これまでの貴会の活動により、アツケシソウ自生地は浅口市の秋の観光地の一つとして今や県内外から一万人を超える見学者が集う場となりました。

本州唯一、日本最南端に自生するアツケシソウをより間近にご覧いただくべく、今年、市では案内看板の設置を新調したほか、自生地C地区へ見学者用木道を設置いたしました。加えて新たな試みに「緑のアツケシソウを楽しむ会」を開催し、紅葉を迎える直前の緑のアツケシソウに白い可憐な花が咲く様子をご覧いただきました。その珍しい姿には、訪れた見学者も心を和ませてくれたのではないのでしょうか。

地元の寄島小学校では、地域学習の

一環にアツケシソウ見学を授業に取り入れたり、地域の皆様をはじめ地元高校生や企業のボランティア団体、近隣市のスポーツクラブまでもが自生地周辺の

定期的な草刈りに参加してくれています。こうした保護活動を伺いますと、天然記念物アツケシソウがこれほど沢山のの方に愛されていることを喜ばしく感じますと同時に、貴重な植物を守るために多くの方のご賛同により熱心な活動が行われていることに改めて心よりの感謝を申し上げます。

さらには、岡山理科大学の星野教授をはじめとするゼミ生による自生地の水質・土壌調査が行われ、寄島町のアツケシソウの生育環境を守る取組みに役立っております。

今後も多くの方のお力添えによりアツケシソウが貴重な財産として皆様に大切に守られていくことを願っております。

終わりに、浅口市寄島町アツケシソウを守る会の今後ますますのご発展と会員皆様のご活躍をお祈り申し上げます。お祝いのごことばといたします。

着々進むアツケシソウランドの整備

奇島アツケシソウを守る会

会長 作田 雅利

平成十六年にスタートした奇島アツケシソウを守る会は、発足以来十二年目を迎えています。日頃、アツケシソウの保護保存

活動につきましても、広く市民の皆さんはもとより全国各地の皆さんに愛され、心温まる激励や募金など物心両面にわたって守る会の保護活動に多大のご協力を賜っており、特に近隣のおかやま山陽高等学校サッカー部・空手部の皆さん、有限会社浅口清掃センターの皆さん、また、倉敷スポーツ倶楽部の皆さんには、毎回の雑草刈り取り作業にボランティアとして献身的なご協力を賜っていることに對しまして、会員一同心から御礼申し上げます。

今年もアツケシソウは、夏の過酷な高温に耐えて順調に生育しており、やがて迎える紅葉期（十月十五日〜二十四日までアツケシソウ祭り開催）には、見事な景観（岡山県の景観百選に選定）を出現してくれるものと楽しみにしております。皆様もどうかご期待の上、大勢の方々のご見学をお待

ちしております。

さて、アツケシソウランドの将来のあるべき姿につきましては、アツケシソウ通信第五号に紹介いたしました。その整備計画は、浅口市のご理解ある施策として取り上げられ、着々と進展しております。

自生地C地区に見学者用木道完成

C地区は、解放区として見学者がアツケシソウを足元で鑑賞できる自生地でありますが、ややもするとアツケシソウを踏みつける危険性があり、また中ほどから奥は水たまりがあつて入ることができなかったためです。木道の設置は見学者にとつて



開花宣言の日に（9月7日）



木道施設工事 (C地区)

は待望の施設でありました。ましてアツケシランドは、浅口市の天然記念物であり貴重な文化財でありますので、教育委員会としても市民にとって文化財の保護活用を促進する施策は、喫緊の課題であるという共通認識から本年度予算を活用して紅葉前の設置が決定したのであります。

完成した待望の木道を一日も早く、市民をはじめ広く一般アツケシソウファンに公開したいという考えもあって、教育委員会主催で初めての企画として「緑のアツケシソウを楽しむ会」を九月十日に開催しました。見学に訪れた人たちは、

木道を歩きながら手の届く位置にあるアツケシソウの可愛い姿をカメラに収めスマホに写して歓声を上げ、またゆつくり木道に腰を据えて、アツケシソウに語り掛けながら楽しんでおられる姿が強く印象に残っています。

写真入り「園内説明看板」の設置

従来もアツケシソウの説明看板はありましたが、今回完成した「園内説明看板」は近代映像技術を駆使した素晴らしいもので、大型の「アツケシソウの年間生育過程」の写真を配置した子供にも分かりやすい看板であります。先般アツケシランドを訪れた寄島小学校五年生の児童たち



豊橋市湿原を守る会来訪



現地学習 (寄小5年生)

ちが、この看板の前に集まってアツケシソウについて話し合っていた姿がこれまた強く印象に残っています。

このほか、将来構想の一つであった「園内に生えている植物へ名前を付ける」事業も、アツケシランドに生育している樹木について植物名を調査し、木札に名前を書いて表示いたしました。更に、「自生地区表示板」の設置については、A地区、C地区、E地区の三地区について、はつきりと分かる地区表示板を設置いたしました。

このように夢膨らむアツケシランドの将来構想は、着々と実現されており浅口

市教育委員会のご努力に感謝しているところであります。なお、アツケシランドの管理運営については、今後に大きな課題を残しており、早急に解決に向けての努力が必要であると考えています。

先にも触れましたが、本年度もアツケシソウ祭りを十月十五日から二十四日までの十日間の日程で開催いたします。どうか多くの方々にご来場ご観察いただきまして、可愛いアツケシソウにお声かけ下さいますようお願い申し上げます。



園内の植物名揭示

「守る会」研修旅行

「大和ミュージアムを訪ねて」

大室 進

六月四日、アッケシソウを守る会の研修旅行で、広島市植物公園と呉市の大和ミュージアムを訪ねた。

研修旅行の時期が過去数回は、草花が枯れた冬場であったため、今回は植物が生きいきとした六月と決め、初夏の活力に満ちた草木や花々を見学できる好季節の研修旅行となった。しかし、天候は六



広島市植物公園にて



モリアオガエルの卵塊

月らしく、湿度の高い一日であった。今回の参加者は総員二十四名で、バス内はゆったりとした雰囲気での出発であった。

広島市植物公園は昭和五十一年に開園し、大温室と各種温室、野外展示場など完備した一万品種二十万本の植物を栽培しており、佐伯地区の高台に設けられている。

大温室は改修工事のため休館だったが、学芸員の丁寧な説明で、アジサイ園からスタートし、野生ランコーナーの温室で珍しいランの花々に目をとめ、オニバスは子供の乗れる大きさだった。ベコニア温室では、咲き競う各種の優美な花々に圧倒された。

園内を一巡して庭園の堀にさしかかった時頭上を見上げると、奇しくもモリアオガエルの白い泡状の卵塊が三つ目とまった。樹木の枝先の卵塊から孵化したオタマジャクシが、水面に落ちる生命の神秘が楽しく想像された。時の経つのを忘れ、花々の美しさと、管理の見事さに感心して公園を後にした。

次にバスは大和ミュージアムへ向かった。最大の見物は、戦艦大和の十分の一の艦体である。当時の日本の造船技術のすばらしさを感じ、同時にこのような状

況が生まれぬよう注視することの大切さを感じた。

疲れのためか臉を緘じた人も見られ、帰路のバスは静かに寄島へと向かった。次回はさらに多くの参加者を期待し、適当な研修先のご意見をお願いします。



サボテン温室



花菖蒲園

「守る会」作業会員 大募集!!

「守る会」会員は現在百余名で、会員皆様のご支援とご協力によって、アッケシソウは保護育成されています。

さらにまた、おかやま山陽高校サッカー部・空手部員の皆さんの若いパワー、NPO法人倉敷スポート倶楽部の小学生と保護者の皆さん、浅口清掃センター社員の皆さんの力強いご支援に、会員一同励まされ元気を頂いております。

「守る会」の草刈等の作業会員も高齢化し、特に作業会員の募集が急がれます。

- ①年会費は五百円で、会の運営に充当。
- ②年三回(四・六・九月)の草刈り作業会員を、特に大募集しています。
- ③研修旅行を年一回行い、会員の研修と親睦を深めています。
- ④今年のアッケシソウ祭は十月十五日〜二十四日。多勢のご参加をお待ちしています。

編集後記

「アッケシソウ通信」第六号をお届け致します。ご多忙の中を早速の玉稿を賜り、紙上より厚く御礼申し上げます。

今年は、待望の素晴らしいアッケシランド案内板と、C地区に木道が設置されました。先日開かれました「緑のアッケシソウを楽しむ会」で、参加された皆様からも大好評で、初めて見るアッケシソウの花を、木道から熱心に観察していました。市当局の深いご理解と熱いご支援に対し、会員一同心から感謝申し上げます。

浅口市の宝物アッケシソウを、次代に健全にひき渡すために、皆様のさらなるご支援とご協力をお願い致します。